

「72の法則」

「72の法則」は、お金が2倍になる年数がすぐにわかる、便利な算式です。

例えば、年利18%でお金を借りた場合、「 $72 \div 18 = 4$ 」と計算することによって、約4年で、借りたお金（返すべきお金）は2倍になることがわかります。

日常生活において「金利」について敏感になることは非常に重要です（例：クレジットカードを利用する場合）。この法則を知ることによって、金利感覚を身につけ、日常生活に実際に役立てることができます。

金利の差は、長い期間で見ると、大きな金額の差に結びつきます。これは「利子にもまた利子がつく」という「複利」の効果によるものです。お金について考えるとき、複利の図を常に頭に描きましょう。

Q 「72の法則」とは何？

お金が2倍になる年数がすぐにわかる、便利な算式です。

例えば、以下のように使用します。

(例1) 「年利3%でお金を運用したら、何年で元のお金が2倍になるかを知りたい」とき

$72 \div 3 = 24$ と計算すると → 「約24年で、元のお金は2倍になる」とわかる

(例2) 「年利18%でお金を借りたら、何年で返すべきお金が2倍になるかを知りたい」とき

$72 \div 18 = 4$ と計算すると → 「約4年で、元のお金は2倍になる」とわかる

つまり、「 $72 \div \text{金利 (年利)}$ 」を計算することによって、「元のお金が2倍になる年数」がわかるのです。お金を「運用」する場合でも、お金を「借りる」場合でも、同じ方法で計算できます。

・この法則を式で表せば、

$$72 \div \text{金利} \div \text{お金が2倍になる年数}$$

となります。算出される答え(ここでは年数)は概算であり、完全に正確な数字ではありませんのでご注意ください(上の式で「=」ではなく「 \div 」(ほぼ等しい)を使っています)。

・この法則は、以下のように示すこともできます(上の式の形を変えただけで、同じものです)。

$$72 \div \text{年数} \div \text{お金が2倍になる金利}$$

すなわち、「 $72 \div \text{年数}$ 」を計算することによって、「元のお金が2倍になる金利(年利)」もわかるのです。例えば、以下のように使用します。

(例3) 「15年でお金を2倍にするためには、何%の金利で運用すればよいのかを知りたい」とき

$72 \div 15 = 4.8$ と計算すると → 「約4.8%で運用すればよい」とわかる

Q 何の役に立つの？

日常生活において、お金を借りたり、お金を運用したりする場合に、この法則を役立てることができます。

お金を借りる場合

- ・買い物をするために、お金を借りるケースを想定してみてください。
- ・現状、例えば消費者金融でお金を借りると、金利18%が通例です。この場合、左記の例2のとおり、18%でお金を借りると、返すべきお金は約4年で2倍になるなど、金利負担の大きさがよくわかります。
- ・また、クレジットカードを使う場合、1回(一括)払いの場合は金利はかかりません。2回払いでも金利がかからない先が大半です。しかし、3回以上の分割払いだと金利がかかり、回数が増えるにつれ金利は高くなります。クレジットカードで「リボルビング払い」(毎月一定額を返済するなどの方式)をする場合や、「キャッシング」(お金の引き出し)をする場合にも、分割払いと同程度以上の金利がかかります。一度、自分が持っているクレジットカードの金利について、確認してみましょう。

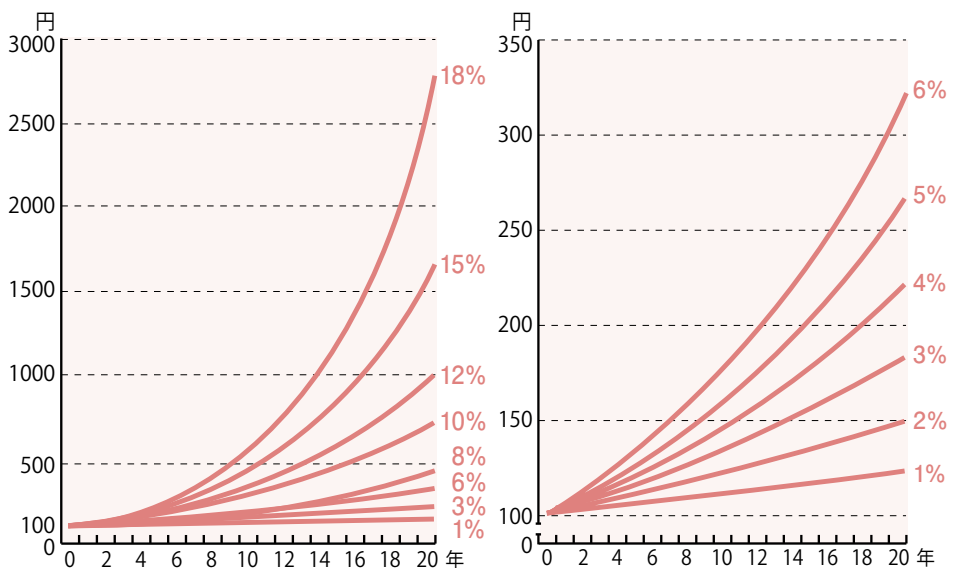
お金を運用する場合

- ・お金を「運用」する場合にも、金利(利回り)について敏感になってください。金利の差は、長い期間では、大きな金額の差に結びつきます。下図A・Bは、お金を借りる場合にも、お金を運用する場合にもあてはまるものです。
- ・お金をためる際、コツコツと少しずつでもためて、少しでも高い金利で、なるべく長い期間運用していくと、最終的には大きな差になります(下図B)。

複利の効果

- ・このように、お金を借りる場合も、運用する場合も、時間が経つにつれ、大きな差になっていくのは、「複利」の効果によるものです。
- ・「複利」とは、「利子にもまた利子がつく」というものです。例えば、100万円を、年利2%で運用した場合、1年後には102万円になります。さらにこれをもう1年、年利2%で運用した場合、「104万円」ではなく、「104万400円」となります。1年目についた利子の2万円に対しても、400円の利子がつくためです。
- ・金利に差がある場合、この複利の効果の違いが積み重なっていき、長い期間で見ると非常に大きな金額の差に結びつきます。
- ・人類史上最高の物理学者とも評されるアインシュタインは、「人類の最大の発見は、複利である」との言葉を残したと言われています。お金の扱いについて考える際には、ぜひ下図を頭の中でイメージしてください。

複利のグラフ (お金(100円)の増え方)



図A 金利が1%から18%の場合

図B 金利が1%から6%の場合